

第Ⅳ章 幼稚園教育実習要項

1	幼稚園教育の役割	55
2	教育課程	55
3	指導計画	58
4	実習にあたっての心得	64

1 幼稚園教育の役割

(1) 幼児の生活と幼稚園

幼稚園は、幼児がその発達を促すためにつくり出された適切な教育環境のもとで、それぞれの時期にふさわしい充実した生活を営み、発達に必要な経験を無理なく得ていくような計画的な教育を行う場である。幼児は幼稚園で、教師や大勢の友達と共に生活しながら、発達に必要な経験を自ら積み重ねていくことが期待されている。

幼児期は、自然な生活の流れの中で、直接的・間接的な体験を通して、人間形成の基礎を培う時期である。したがって、幼稚園教育の目的を達成するために必要な様々な体験を豊富に得られるよう環境を構成して、その中で幼児期にふさわしい生活が営まれるようにすることが大切である。

幼稚園教育には次のような特徴がある。

- ① 同年代の幼児との集団生活を営む場であること。
 - ・多様な体験を通して、主体性や社会的態度を身に付けていく。
- ② 幼児を理解し、適切な援助を行う教師と共に生活する場であること。
 - ・教師が幼児の発達の実情や生活の流れなどに即して幼児にかかわる環境を構成し、幼児同士のコミュニケーションを図るなど適切な援助をしていくことが最も大切である。
- ③ 適切な環境があること
 - ・幼児が友達とかかわって活動を展開するのに必要な遊具や用具、素材、十分に活動するための空間はもとより、生活の中で触れ合うことができる自然や動植物などの様々な環境が用意され、そこで、幼児の発達を促していくことが重要である。

(2) 幼稚園教育の基本は環境を通して行う教育

幼児期は自分の生活を離れて知識や技能を一方的に教えられて身に付けていく時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・間接的な体験を通して、人間形成の基礎となる豊かな心情や物事に自分からかかわろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度などが培われる時期である。

すなわち、生活を通して幼児が周囲に存在するあらゆる環境からの刺激を受け止め、自分から興味をもって環境にかかわることによって様々な活動を展開し、充実感を味わうという体験が重視されなければならない。

つまり、幼稚園教育においては、教育内容に基づいた計画的な環境を作り出し、その環境にかかわって幼児が主体性を十分に発揮して展開する生活を通して、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにすること、すなわち「環境を通して行う教育」が基本である。

2 教育課程

(1) 幼稚園教育とその計画の持つ意味

幼稚園は基本的には幼児に楽しく、充実した生活の場を提供し、その環境とのかかわりの中で幼児の持つ可能性が、その幼児なりに十分発揮できるようにしていくところである。その意味では、一人一人の幼児がその欲求や興味により、その能力に応じて働きかけられるような適切な環境を整備したり、幼児の発達に即して一人一人に応じた援助をしたりしていくことが必要である。幼児の発達を見通したうえで、自園の子供が、どのような子供になってほしいかを定め、そのためには「いつ」「何を」「どのように」用意しておけばよいか、計画を立てる。この計画を教育課程及び指導計画といっている。これらは、幼児の主体性が発揮できるようにするための大まかな見通しであり、時に応じて変更することもある。

(2) 教育課程

① 教育課程の意義

教育課程は、園の教育目標具現のためにどのような筋道をたどって教育を進めていくかを明らかにし、幼児の充実した生活が展開できるような全体的な計画を示す教育の体系である。

教育課程の実施に当たっては、幼稚園教育の基本である環境を通して行う教育の趣旨に基づいて、幼児の発達や生活の実情などに応じた具体的な指導の順序や方法をあらかじめ定めた指導計画を作成して教育を行う必要があり、教育課程は指導計画を立案する際の骨格となるものである。

② 教育課程編成に必要な基礎的事項

1) 法令及び幼稚園教育要領に示されている基準について編成

・教育基本法 ・学校教育法 ・学校教育法施行規則 ・幼稚園教育要領

2) 地域や園の実態を考慮して編成

3) 幼児の心身の発達の過程や発達の特性に適合するように編成

③ 教育目標との関連

教育目標は、どんな幼児に育ってほしいかという願いを込めて幼稚園が設定するものであり、日常の教育活動に反映されていかなければならない。それには、この教育目標が達成されていくための過程を明確にし、それらに教育内容を結びつけて教育課程を編成する必要がある。

新潟大学附属幼稚園の教育目標

「友だちいっぱい 夢いっぱい 元気で遊ぶ附属の子」

次に、この教育目標を具現するための具体的な目標として、年度の重点目標を設定する。

重点目標（R 6 年度）：主体的な子 遊び込む子 協同できる子

さらに、年度の重点目標を達成するために年齢別指導の重点を次のように設定する。

○3 歳児指導の重点

- ・先生や友達と一緒にいることを喜び、幼稚園生活を楽しむ子
- ・自分の思ったことや感じたことをのびのびと表現したり、遊んだりする子
- ・園での生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でしようとする子

○4 歳児指導の重点

- ・友達や身近な人とかかわって遊びを楽しむ子
- ・自分で感じたことや不思議に思ったことをのびのびと表現して遊ぶ子
- ・身の回りのことを進んでしようとする子

○5 歳児指導の重点

- ・友達や身近な人とのかかわりの中で、自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら仲よく遊ぶ子
- ・自分がやろうと思う遊びについて、アイディアを出したり、友達にかかわったりして、遊びを工夫していく子
- ・自分たちの生活を考えたり、整えたりすることができる子

（3）教育課程編成の実際

幼稚園教育は法令や幼稚園教育要領に基づいて行われるものである。そのため、全職員がそれぞれに示されていることについての理解を十分もつと同時に、実践を通してそれぞれの幼稚園の幼児の実情に即した教育課程となるようにすることが大切である。

新潟大学附属幼稚園では、以下のような手順で具体的な編成にあたってきた。

- ① 編成に必要な基礎的事項についての理解を図る。
- ② 教育目標に関する共通理解を図る。
- ③ 幼児の発達の過程を見通す。
- ④ 発達の過程を踏まえたねらいと内容を組織する。

特に③④は、幼児の発達過程が長期的にかつ的確にとらえられるよう配慮した。以下抜粋。

3 指導計画

(1) 指導計画の意義

幼稚園教育は、幼児が自ら意欲をもって環境とかかわることによりつくり出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図るものである。

幼稚園生活を通して幼稚園教育の目標を達成していくためには、まず、それぞれの発達の時期のどのような経験が必要なのかなどを見通し、指導内容や方法を想定して指導計画を立てることが必要である。

(2) 指導計画の種類

指導計画は、一般的に長期的な見通しをもった年、期、月あるいは発達の時期などの長期の指導計画と、それに関連してより具体的な幼児の生活に即した週、日などの短期の指導計画を考えることができる。特に週、日などの短期の指導計画については、幼児の生活のリズムに配慮し、幼児の意識や興味の連続性のある活動が相互に関連して幼稚園生活の自然な流れの中に組み込まれるようにすることが必要である。

(3) 指導計画の作成

指導計画の作成にあたって、次のことを押さえいく必要がある

① 発達の理解

指導計画は、幼児の発達に即して一人一人の幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために、具体的に作成すること。

② 具体的なねらいや内容の設定

幼稚園生活における幼児の発達の過程を見通し、幼児の生活の連続性、季節の変化などを考慮して、幼児の興味や関心、発達の実情などに応じて設定すること。

③ 環境の構成

環境は、具体的なねらいを達成するために適切なものとなるように構成し、幼児が自らその環境にかかわることにより様々な活動を展開しつつ必要な体験を得られるようにすること。その際、幼児の生活する姿や発想を大切にし、常にその環境が適切なものとなるようにすること。

④ 活動の展開と援助

幼児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変化するものであることに留意し、幼児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう必要な援助をすること。

⑤ 反省・評価と指導計画の改善

幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化などに即して指導の過程についての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図ること。

(4) 短期の指導計画と保育の展開

保育案の作成にあたって留意すべき事項

① 環境の構成

1) 環境構成の意味

環境には物や人、幼児が身近に接する自然や社会の事象、時間や場、さらにそれらが醸し出す雰囲気など様々な要素が含まれているが、それらを相互に関連させながら幼児の主体的な活動を促し、その中で必要な体験を重ねていけるような心理的、物理的な状況を作り出していくことである。

2) 環境構成の視点

・発達に即した環境

幼児が生活する姿には、発達のそれぞれの時期によって環境とのかかわり方、受け止め方に特徴がみられる。具体的なねらいや内容に基づいた環境を構成する際には、発達の時期のこうした特徴を捉えて、どのようにしたらよいかを十分に考える必要がある。

・興味や欲求に応じた環境

幼児がどんなことに興味をもち、何をしながらしているのかをくみとって、そこを出発点として考えるが、幼児の表面的な興味だけにとらわれるのではなく、今どのような経験をするのが大切なのかをあわせて考え、環境に反映していく。

・生活の流れに応じた環境

幼児が環境にかかわって展開する活動は、一つ一つが単独で存在するのではなく、幼児の興味や意識の流れと関連して連続的に展開されることによって自然な幼稚園生活の流れをつくり出していく。

3) 教師の役割

- ・活動の理解者として

幼児一人一人がこれまでの生活や遊びの中でどのような経験をしてきているのか、今取り組んでいる活動はどのように展開してきたのかという時間的流れと、自分の学級の幼児がどこで誰と何をしているのかという集団の動きという空間的な広がりを理解することが大切である。

- ・共同作業、共鳴する者として

幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線に立ってものを見つめたり、共に同じものに向かってみたりすることによって、幼児の心の動きや行動を理解できる。そのことによって、幼児の活動が活性化し、教師と一緒にできる楽しさから活動への集中を生み出していく。

- ・援助者として

教師が活動を楽しみ、集中して取り組む姿が幼児を引きつけ、事象との新たな出会いを生み出したり、工夫して遊びに取り組んだりすることを促す。活動面とともに、善悪の判断、いたわりや思いやりなどの道徳性を培ううえでも、教師は一つのモデルとして大きな役割を果たしている。また、遊びが深まっていかなかったり、問題を抱えたりしている時など、いつどのように、どうやって援助をするのか、一人一人の発達に応じた援助の仕方を考える。

- ・精神的な安定をもたらすよりどころとして

幼稚園で安定し、落ち着いた心をもつことが、主体的な活動の基盤となる。その時々幼児の心情、喜びや楽しさ、悲しみ、怒りなどに共感し、こたえることにより、幼児は教師を信頼し、心を開くようになる。

② 活動の考え方

1) 活動を豊かにするとは

幼児が積極的に環境にかかわり、活動を展開する場合、その活動は多様な仕方で展開される。重要なのは、活動の過程で幼児自身がどれだけ遊び、充実感を得ているかである。活動の結果どれだけのことができるようになったか、何ができたかだけを捉えてはならない。

いろいろあり得る活動の中から興味のある活動を選び取っていけるように、しかも、その活動の中で発達にとって大切な体験が豊かに得られるように環境を構成する必要がある。

2) 活動を充実させるとは

幼児が活動に没頭する中で思考を巡らし、心を動かしながら豊かな体験をしていくことである。

(5) 保育案の作成について

保育案（研究保育）の書き方

以下を参考にして保育案の作成にあたる。尚、作成にあたっては、担当指導教員と打ち合わせを重ね、研究保育を迎えるまでの部分保育での学びや、実習中に積み重ねてきた幼児の見取りが活かされるものになるよう留意すること。

____歳児 _____組 保育案

〇〇年〇〇月〇〇日（曜日）

担当実習生 〇〇 〇〇

指導教諭 〇〇 〇〇

1 幼児の実態・遊びで経験してきたこと・保育の構想

- * 学級の幼児の実態を、実習担当教官・学級担当の実習生全員で相談しながら記述する。
- * 前日までにどんな遊びが展開され、どんな経験をしてきているのか記述する。
- * 幼児の実態を捉える観点としては、次のようなことが挙げられる。

・興味や関心 ・経験していること ・育っていること
- * 幼児の実態を踏まえ、研究保育でどんな子供を目指すのか教師の願いと、そのための手立てを記述する。
- * 研究保育で中心的一かかわっていきたい幼児（またはグループ）を決め、その幼児にどのようにかかわっていくのか考えていくと、保育の構想（手立てを含む）が立てやすい。毎日の幼児の様子をよく観察し、個々の特徴や個性をつかみ、支援につなげたい。

「1 幼児の実態・遊びで経験してきたこと・保育の構想」の記述例

1 幼児の実態・遊びで経験してきたこと・保育の構想

子供たちは～。～。

前日までの遊びでは、次のようなことが行われていた。

〈屋外遊び〉

○砂場遊び

砂場では、～が行われている。川をつなげたり、深くしたりしようと、友達同士協力しようとする姿が見られた。その中で、どのような川にしようか相談したり、掘る人と水を運ぶ人など役割分担したりしながら遊んでいた。

○カエル探し

～～～

〈屋内遊び〉

○レストランごっこ

～～～～

○アスレチック遊び

～～～～～

〔a〕 このように、子供たちの遊びを見ていると、～～～な様子が見られる。また、～～～していることが多い。〔b〕 そこで、本研究保育では、（子供たちに）～～～させたい。

学級全体の実態、遊びの傾向を述べる。

具体的な遊びの様子を述べる。また、その中で見られた幼児の価値ある姿、育っていることなどについても記述する。屋外遊びと屋内遊びに分けて記述すると分かりやすい。

a. 上の具体例で述べた遊びにおける友達とのかかわりや経験、育っていることについて、保育者の解釈を記述する。また、子供が思いや願いをもって遊ぶ姿を描く。
b. 保育者の願い（この願いが、2の「ねらい」に反映される。）

そのために、次のような援助を心がける

- ① ～～～～。
- ② ～～～～。
- ③ ～～～～。

このような援助を心がけることで、[b] ～～～な子供の姿を支えていく。

b.の願い（あるいは願いが反映されたねらい）を達成するための援助について書く。環境構成や言葉掛けなど、教師の援助のうち、特に意識して行う援助について記述する。

[b] 子供の願いとその具現のための援助。これらが保育の構想の柱である。

2 ねらい

- * 1の「幼児の実態・遊びで経験してきたこと・保育の構想」を受けてねらいを記述する。
- * ねらいは遊びを通して幼児に育つことが期待される心情、意欲、態度などである。
- * 教師の意図に留まらず、子供の主体性を発揮して活動できる内容にする。

3 内容

- * 内容はねらいとする子供の姿の実現のために、教師の援助の下で、幼児が主体性を発揮して活動を展開していくことが望まれるものである。
- * ねらいとする子供の姿の実現に向けて、幼稚園教育要領解説(平成30年3月)の第2章の第2節「各領域に示す事項」の「内容」から適当なものを選ぶ

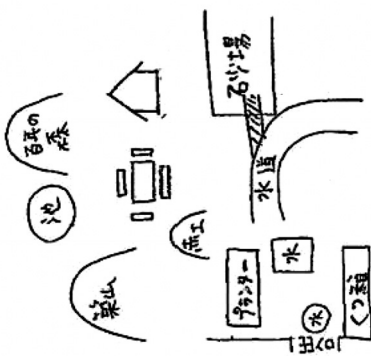
4 展開

- * 自発的な遊びの場面を詳細に描く。
- * 環境構成図を入れる。
- * 活動の終始時刻を入れる。

環境の構成	時間	予想される幼児の姿	保育者の援助

保育案（部分実習）の書き方

〇〇月〇〇日（曜日）天候		歳児	組	担当者	〇	〇	〇	〇	検 印
ね ら い	◆ねらいとは、幼児の実態を捉え、それを望ましい方向に変容させるために設定するものである。それは、次の2つの観点で行われる。 ①現状をより充実、発展させる。 ②一部の幼児に現れてきた望ましい姿を全体に広げる。	内 容	◆ねらいとする子供の姿の実現に向けて、幼稚園教育要領解説（平成30年3月）の第2章の第2節「各領域に示す事項」の「内容」から適当なものを選ぶ。						
	時間	予想される子どもの活動			保育者の援助				
環境構成図 ◆ねらいや内容が設定されたら、達成に向けてどのような「環境構成」をするかを子供の姿をもとに考える。 ◆ねらいの達成に適切な園具、遊具、用具、材料を付加したり不要な物を収納したりすることも考えなければならない。		◆活動していくのは子供である。子供の立場に立って、予想される活動を書く。 ◆時間の順序に従って、前日までの遊びの様子から予想する。			◆保育者の願い（ねらい）をもとに、子供が存分に遊びに向かえるために、どんな援助をするのか考える。 ◆遊びの中でどんな言葉がけや援助をするのか、具体的な場面を想定しながら、具体的に詳しく記述する。				

6月00日（曜日）天候 晴れ			5歳児		組 担当者 ○ ○ ○ ○		検 印	
ね ら い	環境の構成		時間	予想される子どもの活動		◇環境構成 □保育者の援助 ・留意点		
					◇外遊び ○雨樋遊び ・雨樋をつなげて、遠くまで水を流せるようにする。 ・水の流れ方（低い方に流れる）に気付き、雨樋のつなげ方を工夫する。 ・水の流れに、おもちゃや葉っぱを流してみる。 ○レストラン ・砂や土、水を使って料理を作り盛りつける。 ・花をすりつぶして水に色を付け、ジュースに見立てたり料理に使ったりする。 ・石けん水を泡立てて料理の材料にする。 ・近くにいる友だちをお客さんとして呼ぶ。 ○虫探し ・バッタ、カエルなどを園庭で探し、網や手でつかまえる。 ・つかまえた虫を飼うためにはどうしたらいいか考える。			
	〈後片付け〉 ・運ぶ人、洗う人、しまう人と分担して片付けをする。				◇次の日の遊びにとっておきたいものは、場所を決めてそこに置けるようにする。 □教師も一緒に片付けをしたり、片付けの様子を褒めたりして意欲を高める。			

4 実習にあたっての心得

(1) 教育実習の意義・目的

① 教育実習の定義

教育実習とは、教育現場において一定の教育実習園の指導教諭の指導のもとに、実際の教育活動を体験することをいう。

② 教育実習の目的

教育実習の基本的なねらいは、直接的な体験活動を通して、大学等で学んだ理論や方法を幼稚園現場で生かす教育的諸能力を身に付けることである。また、幼児のありのままの生活の実態に触れることによって、教育愛を自覚し、豊かな人間性を育てる教師としての資質や態度を育成することである。

○大学等で修得した教育理論や教育方法を実践的に検証する。

○教師の在り方や職務を体験的に理解する。

○幼稚園の実情や幼児の実態、問題点を把握し、その解決の心構えや方法を修得する。

○幼児や保護者、地域社会の人々との人間的触れ合い、教師としての誇りや喜びを体得する。

○教師としての自己の個性、能力や適性について自己評価する。

(2) 実習の内容と方法

教育実習は実習前の事前指導から始まるが、実習内容は、観察、参加、実習の三つに区分して行われる。

① 観察

幼稚園の教育現場で行われている教育活動を直接、見聞、記録、考察・分析して教育資料を収集する。

○主な観察事項

- ・配属された学級、園全体の保育や教育活動の参観
- ・子供の園や学級への適応状態、友達関係などの観察
- ・教師の支援の仕方や保育環境の工夫・整備状況の観察
- ・教職員の服務、日常活動、幼児との人間関係などの観察

② 参加

保育者またはその補助者としてその学級経営や保育活動に協力し、教育指導や教師の職務について理解を深める。

- ・指導教諭の指導、助言のもとで一部の実地指導をする。
- ・個別指導の場面で補助者として指導・助言する。
- ・教材、教具の作成、準備、環境整備、作品処理などに参加する。

③ 実習

指導教諭の指導のもとに、保育活動や援助の仕方について基礎的な知識や技能を習得する基本の実習と基本で学んだことに創意工夫を加え、自分で責任をもって指導にあたる応用実習の部分がある。

実際に教えることによって、専門的な知識や技能を身に付ける。観察、参加、実習の一連の教育実習の過程を通して、人間形成の基礎を築く幼稚園教育の担い手としての教師の資質や態度を体験的に学ぶことが期待される機会である。

(3) 各年次教育実習の重点目標・内容

① 4年次教育実習

1) 目 標

3年次までの小・中学校での教育実習や、期間中の幼稚園保育参観での経験を基にして、指導教員の指導・助言により、保育活動及び幼児理解の実際について、基本的な知識・技能の修得を図る。

2) 内 容

○幼児の園生活について

- ・遊び、集団生活、一日の流れ、基本的な生活習慣

○幼児理解について

- ・事実の観察、行動の背景にある意味の理解

○保育活動について

- ・遊び、集団生活、基本的な生活習慣と援助と指導

② 1日の時程にそっての仕事の内容とその指導について（例）

時間	内 容	主 な 仕 事 内 容
8:15	出勤 打ち合わせ	・出勤簿捺印 ・担当箇所点検 ・当日の保育準備と環境の構成（保育室通風採光，足洗い場，砂場諸準備，飼育物の点検） ・各種連絡，打ち合わせ，確認等
8:45	保育活動 登園時の指導 充実活動の指導	・朝の挨拶 ・健康観察 ・出欠等の確認 ・遊び，生活行動の指導と援助 ・危険の防止 ・遊びの環境の再構成 ・素材の提示 ・友達関係の観察・援助 ・遊びに応じた援助
11:20 11:40	片付け 給食指導	・環境の整理 ・次の活動への準備 ・子供の協力性，作業の様子を観察 ・集団生活の指導 ・排泄，手洗いうがいの指導 ・食事作法 ・事前指導 ・後始末 ・歯みがき指導
13:00	保育活動	・遊びの環境の構成 ・素材の提示 ・遊びに応じた援助
13:20 13:30 ） 14:00	降園指導 降園	・集団行動の指導 ・身支度や持ち物についての確認 ・絵本，紙芝居の読み聞かせ ・歌や製作活動などの集団活動の指導 ・一日の反省，翌日の予定 ・連絡，おたよりの配付等
13:50 14:15	環境整理 清掃 休息	・保育室及び戸外（砂場や足洗い場）の清掃
15:00	学級指導	・本日の保育についての反省 ・本日の保育活動についての記録と明日の保育活動の準備 ・個人記録の整理，一人一人の特性の把握（幼児理解） ・作品，その他 ・保育案の作成，教材の準備，環境の整理，整備（安全点検）
17:00	退勤	・保育室の整理，施錠，翌日の環境の構成 ・退出前に担当箇所の見回り，施錠をする。 ・控え室，机上の整理，施錠，消灯，指導教諭に挨拶

